君の毒

Noran

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君の毒

【Ｎコード】
Ｎ９８５９Ｋ

【作者名】
Ｎｏｒａｎ

【あらすじ】
してはいけない辛い恋
好きだけで行動を起こす
純粋な心と
相手の優しさを使用する
黒い心
どちらも併せ持つ女の子の切ないお話

始まりこそあっけなかった

アタシは『彼方　慶』
あの頃は何処にでもいる
ただの専門学生やった

アタシとアイツが
こんな関係になったのは
いつからやっけ??

そう遠くはない日やった気がする・・・

懐かしい写真と
プリクラを見ながら
思い出した

アイツとは
今見ているプリクラで
微妙な笑いを浮かべている
『淡路　由紀夫』

バイトが同じで
同じ年で
ただそれだけやった

あと強いて言えば
顔が好みだった

それくらい・・・。

あれは菜奈の家に
ユキとアタシと宗也で
遊びに行った時だ

バイト前に菜奈が

「慶ちゃん！！！
今日宗チャンと由紀くんと
バイト一緒やろ??
終わったら菜奈ンちに
０３人で来てょ＾＾」

とメールが来てた

菜奈は大学に通うために
愛媛から出てきて
０１人暮らししてる

寂しいのか
何かとアタシやシュウを
メールや電話で呼び出す

年が同じ
バイトも同じ

その為甘えやすいのか
かなり頼ってくれる
かわいい妹みたいやった

メールを読んですぐに
「由紀と宗にも言っとく☆」
と返事をかえした

菜奈は１分もかからず

「ご飯作って待ってるネ＊」
と恋人みたいなメールを
アタシによこした

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

バイトは金曜やのに暇で
することもないアタシは
ボーッとフロントに立ってた

宗は真面目なのか
何かしら仕事を見つけて
せっせと動いていた

由紀は見るからにやる気が無い
まぁ、確かにやることの無い状況で
やる気を出せと言う方が
難しい話なんやけど・・・。

すると由紀がフロントに来て

慶「どしたん??」

由「なぁ、俺上がっていい??」

って・・・

アタシに聞くなよ；

慶「さぁ？？店長に聞いたらええやん」

アタシがそう言うと由紀は拗ねた様に

由「店長が慶がいいってゆーたら

上がっていい言うとったもん」

本間めんどくさい；

店長のくせに

バイトにバイトの管理させんなよ！！

由「なぁー？？いい？？」

慶「いいけどバイト終わったら

菜奈が家来いって言ってたから

それにくるなら上がっていいで」

由紀は考えて

由「・・・わかった！！」

そう言うと早々と着替えて

由「２３時過ぎに店の下で待ってる」
と、帰っていった

結局由紀が帰ってからも
店は暇ですることもないまま
宗とアタシは２３時に上がった

２３時半前に店の下に行くと
由紀はまだ来てなくて
おなかの空いたアタシは
機嫌が悪かった

宗「慶??先に菜奈ンち行っとくか??」

宗はアタシの機嫌が悪いのを
悟って言い出した

アタシは無言で頷き
去り際にぽつりと

慶「由紀チャンにコーヒー買ってこい
ってゆっといて・・・。」

と残してアタシは先に
菜奈ンちに行くことにした

菜奈ンちはオートロックで
マンションの玄関に呼び鈴がある

しかも住居人はみんな女
かなり安心できるマンションや

呼び鈴を押すと
菜奈がはぁ～いと
言いながら玄関を開けてくれる

3階まで行くと
ドアが開けっ放しの
菜奈の部屋が目に入る

慶「菜奈ぁ～??」

菜「慶チャン!!お疲れ様w」
と恋人のように出迎えてくれる菜奈

慶「菜奈;ドアはしっかり閉めような;」

と、とりあえず忠告した。

菜「ご飯できてるよw
食べるやんね??」

慶「食べる!!ケド宗たち来てからにする」

菜「じゃあ先お風呂入ってw」

菜奈がお風呂を勧めてくれたので
先にお風呂に入ることにした

お風呂から上がると
由紀チャンと宗が来てた

菜「由紀クンと宗チャン
来たからご飯食べてW」

と菜奈がパスタを
準備してくれてた

慶「由紀チャン、コーヒーは??」

由「え??」

慶「宗!!」

宗「あ〜忘れとった笑」

と、アタシは怒り
由紀は何が何やら
宗は笑っている

慶「お風呂上がりにコーヒー
飲みたかったのにー!!」
と喚いていると

由「下ファミマやから買いに

行ったらええやん」

慶「めんどくさいから嫌」

そう、すぐ下にコンビニがあるんやケド
買ってきてくれるものやと
思い込んでいたアタシはもうめんどくさかった

何やかんや言いながら
ご飯を食べて喋って

気づいたら０２時前で

宗「俺ら明日休みやケド
慶は学校あるんやろ？？」

と、宗がアタシに言った

慶「行きたくないぃぃ！！」

由「じゃー休みぃや、」

慶「でも行かなアカンもん」

由「じゃー行きぃよ、」

慶「いややぁ～」

と由紀とアタシの言い合い

宗「俺もぅ寝るから；」
と、宗は呆れて先に寝た

菜奈はとっくに寝てて
気づけばアタシと由紀しか
起きてなくて

でもアタシは眠くなかった

由「寝やんの？？」

慶「眠くならんねん；」

由紀は暫く黙り

由「俺の組んでるバンドに
しぃーチャンて子が
おるンやケドなぁ～」

といきなり話始めた

由紀はアタシが
眠くなるように
話をしながら
背中をポンポンと

叩いてくれた

いつの間にか
アタシは眠くなって
由紀に寄り添うように
くっついて寝た

また由紀も
アタシを抱き締めて
眠りについていた

働かない頭でぼんやりと
少し前の話を思い出した

バイトの先輩が

男女の友情は
成立せぇへんよな??

って由紀とアタシに
聞いてきた

だからアタシは

「そんな事ないです
アタシと由紀チャンなら
例え一緒に寝たとしても

何にも起こんないですッて
なぁ??由紀チャン??」

ッて由紀に聞いたら

由紀も
「そぅやな、何もないわな笑」

ッて笑って話した

本間に何もなかったら
こんなに苦しい想いは
なかったんかなぁ??

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

携帯のアラームに
起こされて
少しイライラしながら
目を冷ました

昨日はいつの間にか寝てて
いつの間にか朝がきてた

眠い目を開けると
ソコには由紀の顔

かなり近くて
ビックリした

昨日あのまま
由紀は抱き締めて
寝てくれたんや
ッて事がわかった

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

この時は何かわからんかったケド
すでに由紀を好きになってたんや
って今ならわかる

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

周りの気配で
まだ宗も菜奈も
起きてないのがわかった
由紀も夢の中・・・
携帯をみると

まだ寝れるな～
と思い二度寝しようと
由紀の胸に寄り添い
由紀を下から見上げた

すると急に視界が暗くなり
さっきよりも
由紀との距離が
近くなったな～
何て考えてると
唇に何かが触れた

その何かが何なのか
理解するのに
時間はかからなかった

由紀の唇

キスされたんやッて

ただビックリした
それだけ・・・

嫌じゃなかったし
むしろ

どきどきして
嬉しかった

初めは触れるだけの
それはだんだん深くなって
流石に宗に気付かれる
ッて思ったアタシは
由紀から顔を反らした

それからすぐに
０２回目のアラームがなった

アラームが煩いんか
宗も菜奈も起き出し

由紀だけが起きなかった
というか起きてるケド
寝たふりしてた

アタシは学校あるからッて
菜奈ンちをでた

でも駐輪所まできて
行く気がなくなって
何かモヤモヤして
駄目になりそうで

だから学校に電話して
正当なずる休みをした

家に帰るんも
嫌やからとりあえず
菜奈ンちに戻った

菜奈ンちに戻ると
宗と菜奈は
驚いた顔もせず
迎え入れてくれた

由紀はまだ寝てて
何かイライラしたから
とりあえず蹴った

菜「慶チャン、宗チャン
朝ご飯食べる??」

慶・宗「食べる!!」

菜「由紀クンいらんかな??」
慶「さぁ??寝てるしなぁ;」

そんなやり取りをしてると
由「ん～・・・何時??」
と由紀が起き出した

宗「０８時半過ぎ」

由「・・・そっかぁ、てか・・
お腹空いたな」

と由紀がお腹を擦りながら
菜奈に向かって言う

菜「今から食べるから
由紀クンも食べよぉ～W」

朝から０４人で
菜奈の手作りカレーを
食べました・・・笑

ご飯を食べたアタシは
眠気が襲ってきて
抵抗せずに眠りに落ちた

次に起きると昼前で
由紀は居らんかった

慶「宗、由紀チャンはァ？？？」

宗「由紀夫は帰った
何か用事あるンやって」

慶「ふ～ん・・・菜奈は？？」

宗「風呂入りにいった」

慶「ふ～ん・・・そっか」

慶・宗「「・・・・・・・・・。」」

０２人の間に沈黙が流れる

慶「しゅーチャン・・・？？」

宗「んー？？どした、」

慶「・・・あんなぁー・・」

中々言い出せへんかった

宗は気付いてたんやと思う
だからアタシが
中々言い出さんくっても
何も言わんと
黙って待っててくれたんや

慶「由紀チャンとちゅーした」

等々吐いてしまった・・

宗「あー・・・何かそんな気してたわ;」

慶「・・・何でそぉなったかはよく解らんねん・・・。
起きたら由紀チャンの顔近かって、近いなァ〜思たら
ちゅッて・・・」

宗「しちゃったもんは仕方ないやろ;
ッてかさ、慶も彼氏おるやろ??由紀夫も彼女おるやん??」

慶「うぅ・・・;」

そう、アタシと由紀には
彼氏彼女がおった

アタシの彼氏はつき合って
０１ヶ月半くらい
０２個上の「潤くん」
最近うまくいってなかった
由紀の彼女はつき合って
もうすぐ０１年くらいの
同い年の『佳名ちゃん』

お互い恋人がおったケド
キスしてみた、
でも深い意味はなかったと思う

お互い理性より好奇心が
勝ってしまったんや
ただそれだけの事やったんや

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

あれから０１週間
何事もなく毎日が過ぎる

由紀とはアレ以来

何もない

二人ともあえて
キスの事を話には出さない

かといって会話をしなくなったわけでもない、

本間はキスが夢かと思っちゃうくらい
お互いが普通やった

それからしばらくして
バイトの先輩の
送別会があった

由紀と宗もくる
後はバイトの先輩トカ

楽しくお酒飲んでたら
菜奈からメール

本間は今日菜奈も来るはずやったけど
何か目の調子が悪くて
これへんかった

菜「慶チャン今日ゴメンね
飲み会が終わったら泊まりに来てぇ～（；＜；）」

宗にメールをみせると

宗「菜奈のスッピン見に俺も行くわ笑」

宗「由紀も来るやろ??」
と、急に由紀に話をふる

由「…いいよ笑」

結局いつもの03人で
菜奈ンちに行く事になった

菜奈の家に行ったのは
日付が変わる少し前

結局03人で菜奈ンちに
上がり込んで
結局03人で泊まる

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

そしてこの日
由紀と02回目のキスをした

悪びれもなく
さも恋人とするように

愛し合ってると

錯覚するくらいの
感覚が麻痺してしまうくらいの
甘い甘い
キスをした

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

あれから何度か
菜奈の家に行った
由紀も宗も一緒に
そのたびに
アタシと由紀は
キスをした

それ以外はなかった

でもソレは急に
とても急に・・・
変化するもの

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

由紀がバイト中に怪我をした
ガラスでざっくり
指を切った

たまたまシフトを見にきてたアタシは
病院に付き添うことになった

由紀は特に
痛そうでもなく
でも血は溢れて
正直かなり心配やった

でもアタシが慌てたって
何も始まらんし
ただ止血して
タクシーで病院に向かった

その日に初めて
由紀が好きかもと思った

どんなタイミングで
気付いてんのって

自分でも思ったけど
何でかこのタイミングで
変化が起きてしまった

まさにハプニングとは
この事なんや
って身をもって体感した

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日付は変わって
次の日の事だ
この日はバイトの防災訓練
面倒くさい事この上ない

でもこの日は夜から
彼氏の潤くんと
会う日やった

そんで昼間は由紀と
遊ぶ約束をしてた

防災訓練も終わって
由紀の病院に着いていって
ご飯食べにいった

ご飯を食べ終わると
由「どっか行きたい所あるんー??」
慶「特にないかな??笑」
由「ないんやったら家でもいい??」
正直ビックリした
まーでも、
特にする事もないぅチら
ウロウロしたって暑いだけ
6月頭なだけに
外は湿気が多く暑かった
由紀の家に行って
ただマッタリするだけで
たわいもない話して
一緒に昼寝した
当然のように
キスをした

猫がじゃれあうように

でもこの日は
違った・・・。

由紀にはキスだけじゃ足らないようで
明らかに違うものを
求めてるのがわかった

でもソレは越えたら
駄目な気がして
必死に気付かんふりをした

ただ必死にキスだけに答えた

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
夜に彼氏と会った
でもまともに顔なんて見れなかった
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

由紀と遊んで

数日後
彼氏と別れた

彼氏もなんとなく別れたがってるのは
わかってたみたいやった

何かスッキリした
結局潤くんより由紀を
とったアタシ・・・
由紀の存在の方が
不確かやったのに

なんて最低なオンナやろう

って思ったけど
彼氏も浮気をしてたらしい

何か笑けた

だってお互い付き合ってんのに
しかも二ヶ月と経ってないのに
お互い浮気って・・・・
何のために付き合ってたんやろう
って思ったし
この時一気に罪悪感なんて吹っ飛んだ

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

由紀に彼氏と
別れたことを告げた

何か変わると期待をした

ソレから
少しして
アタシは由紀の家に
自分から泊まりに行った

まんまと抱き合った・・

後悔はなかった

でも由紀に謝られた
ゴメンなんて由紀から
聞きたくなかった

謝るくらいなら
アタシとシてんじゃねーよ!!

むかついたケド
好きの方が勝つ
アタシが情けない

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

由紀と０１回シてから
０２人でメールで話し合い
『もうシない』
って０２人で決めた

ソレから０１ヶ月
また・・・

未遂で終わったけど
結局０２人はそうゆう関係
何も変わらなかった
話し合いなんて
意味がなかったんや

曖昧な０２人の関係が

始まってしまった・・

わかったことが二つ
アタシが由紀を好きになってしまったこと

それでも由紀はアタシに優しいこと

由紀に気持ちはない

それでも
体だけでも
由紀と繋がってたかった

本間に情けないな

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

夏休みになって
アタシと由紀は
夜から明け方までバイトに入って

０２人で朝に由紀の家に
帰ってきて
音楽聞きながら
適当に話しして
体を求めあった

いつもゴムは使わなかった
不思議と心配はなかった
てゆうかもう
気持ちよさ優先で

気にも留めなかった

愚かな行為

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ただ密かに思っていた事は
子供ができれば由紀を
アタシの元へおいておけると思った

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

由紀の彼女は
気づいてたやろう

アタシってゆう
邪魔な女がいる事を

でも関係は
終わらんかった

夏は週３ペースで
由紀ンちに行ってた

由紀と抱き合ってる時だけ
由紀がアタシだけのモノやった

らぶっぽくて
幸せやった

でも所詮『ぽい』だけで
本物のらぶじゃなかった

それでもアタシは良かった
我ながらバカな女

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

何度か自分のキモチに抑えがきかんくなって
由紀にもう止めようッて
言ったこともあった

でも結果は同じ

また続けてた・・
本間に笑える

頭のどっか片隅で
続けてればいつかは
アタシを好きになって
付き合うようになるかも

なんて馬鹿馬鹿しい
考えを浮かべてた

『いつか』なんて
一生来ないことくらい
わかってるくせに

諦めの悪い女・・・

それでも『いつか』を
信じたくなるくらい
由紀夫に惚れてた

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

夏が終わって
秋になって

冬がきた・・・

寒くなっても
関係は変わらなくて

でも回数は減った

何度か由紀にはアタシが
由紀を好きな事を伝えた

でも関係は変わらなかった

酷い男・・・
でも由紀の優しさを
利用してるアタシは
もっと最低な女

無限のループ
悪循環

最悪な状況

耐え切れなくなったのか
何なのかはわからないけど

学校のトイレで
手首を切った
決して深いものではない
浅い浅い
それは薄っすらと
血の滲む程度の
浅い傷

何度も何度も
切った

痛かった
傷より心が痛かった

由紀チャンと一緒にいると
傷つくばっかり

それでも逢えないと
一緒に居れないと

何もできなくなってしまうアタシは
かなりの愚か者やと思う

腕のことは
宗チャンに話した
嫌われると思ったし
怒られると思ったケド

怒られなかったし
嫌われもしなかった

ただ優しく
頭をなでて

「ばか・・・」

って言われただけやった

それがひどく心地よくて
涙が出そうになった

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

１１月の半ば
由紀が彼女と別れた
うまくいってないのは知ってたし

何より由紀夫の部屋から
彼女のものがなくなってた

だからすぐに理解できた

だからかな？？

うまくいけば
付き合えるかもッて
期待が消えなかった

お情けでも
何となくでもよかった

それくらい
ハマって抜け出せなかった

でも、由紀は
アタシに彼女と別れた事を
告げることはなかった

別れてることは
事実なのにね、

やっぱり『いつか』は
アタシの元へこなかった

アタシは年末に
最後の告白をした

忘れもしない
１２月２９日

ちゃんとフってもらった

由紀チャン・・

さよならばいばい

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

２００９年

新たな年には

新たな恋を始めよう

単純やケド
傷心中に優しくされると
好きになっちゃうアタシ

つくづくバカな女・・

それでできた好きな人

充(みつる)くん
居酒屋の店員で同い年の
ちょっとやんちゃな子

見た目と違って
しっかり者で
優しい人やった

由紀チャンに早速報告した

ちょっとは寂しがるかな
トカ若干期待した

ケド由紀チャンは普通に
『良かったやん！！オメデト』
ッて
友達に戻ったんやし
反応は当たり前やケド
やっぱりどっか寂しかった

ソレからしばらくして
由紀とアタシと
新しくはいった里奈と０３人で
夜勤の最中に話の流れで里奈が
『淡路くんッて彼女いてるんー？？』
ッて聞いた

正確に言えば
アタシが聞いてッて言った

そしたら由紀は
「おるよ」ッて

この時アタシは
別れてなかったんやな
ッて思ったのに

里「付き合ってどれくらいなん??」

由「半月くらい」

耳を疑った・・

半月??

半年の間違いやろ??

いや、半年でもおかしい

そこでいつもは回転の遅い頭がフル回転した

あぁ、彼女と別れて
新しく彼女できてたんや
ッて・・・

結局彼女がいなくなっても

アタシが由紀の彼女になる
可能性はこれっぽっちも
残ってなかったンや・・

でも何かソレは
軽く受け入れれた

それより彼女ができた事を
教えてもらえなかった事が
ショックでしゃーなかった

それにまだアタシが
由紀を好きやと思われてそうで
癇に障った

その日は散々文句を言ってやった

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

年が明けてしばらくして由紀と０２人で
充くんの働く居酒屋に飲みに行った

でも充くんは休みやったらしくアタシは嘆いた

でも由紀とは久々に
ゆっくり話した

由紀の彼女の事
音楽の話、充くんの事

こんなに穏やかに話をするのは
久々でかなり楽しかった
だから時間感覚が狂って
結局閉店までいた

それから
由紀の家によって
ｉＰｏｄに曲を追加した

こりゃまた話が
盛り上がり・・・
結局泊まることになった

不本意やった

だって絶対に
ヤってしまうから

だからそうならないために
別々に寝ようって言った

これは自分なりのけじめのつもりやった

だからわざと
横に行かんかったのに

何で由紀は誘うかな、

そんな事されると
アタシあほやから
勘違いする・・・

まだ好きでいていいんかな
ッて勘違いする

結局その日は
由紀と一緒に寝た

言わずとも
ソウなったのは
わかるだろう・・・。

愛なんてない
らぶっぽく見えるだけ
それでも真剣に愛してたのは
アタシだけだ

だから
さよなら

ありがとう

大好きでした

もう会う事はないでしょう

アタシの人生で
一番長い片想いでした

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

０３月に入って
アタシは０４月から
社会人

就職も決まってた

だから由紀と
唯一会えるバイトも
なくなる

本間に会う事はなくなる
なんなら会わん方がいい

由紀のためにも
アタシのためにも

０３月２７日
最後のバイト

由紀と一緒やった

由紀の誕生日が
近かったから

里奈と０２人で
祝うつもりやった
でも里奈は急にバイト来れなくなって
結局アタシ０１人で祝うことにした

由紀は喜んでくれた
アタシも嬉しかった

最初で最後の
誕生日祝い

もう会えない
会わない

そう決めたのに
やっぱりアタシの中は
由紀がいっぱいで

どうしようもなかった

何回も何回も
由紀の優しい手とか
だるそうな声とか
冷たい目とか

思い出しては
一人で泣いた

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

仕事が始まって
最初の方は
連絡をとってたけど

一ヶ月もしないうちに
メールを送っても返ってこなくなった

あぁ、アタシは要らんくなったんやなぁ

ッて改めて思って切なくなった

由紀の中でのアタシは
友達の1人で

アタシの中での由紀は
アタシの恋愛観を
揺さぶった人

嫌いになれたら
良かったのに

でも嫌いになる勇気なんてなかった

アタシはまだまだ
由紀が好きで
アタシの中の
由紀を越えてくれる人はおらんし
この先もおるかわからん

だから由紀の事
思い出したくなくて
他の人と比べる自分が嫌で
アタシの隣にはまだ誰もいない

アタシは由紀と彼女の幸せを
願えるほど大人じゃない

かといって彼女に全てバラす事もできへん

由紀に嫌われるのが
怖いから

本間にバカな女
情けないね

会えないなら
好きになってもらえないやったら
傷付けて嫌われれば楽やのにな

さよなら由紀チャン

アタシはまだこの恋に対して
胸の奥と手首がずきずきと

音をたてて痛みだすケド

コレを書き終えたら
借りた小説をポストに
いれとくな

これで由紀チャンと繋がるものは全部無くなるから
１００％なくなったから
振り返らないようにする

大嫌いでした。

（後書き）

自分の恋愛体験です

ノンフィクションってやつです；

読んで頂きましてありがとうございます

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9859k/

君の毒

2011年1月19日23時14分発行